

ANNUAL REPORT 2014

国際環境 NGO FoE Japan 2014年度年次報告書



未来のために、変えたい今がある！

FoE Japanは、地球上のすべての生命（いのち）がバランスを取りながら心豊かに生きることができる「持続可能な社会」を目指し、1980年より日本で活動を続けています。

開発事業にさらされる途上国の住民の声、原発事故の被害を受けている福島の人々の声、温暖化や原発政策、森林破壊を止めたいと願う市民の声。

一人一人の声は小さくても結集することで大きな力を生み出すことができます。

国民のためにと導入される政策、貧困解消と発展のためにと実施される巨大プロジェクト。

現地の人々はそれを本当に欲しているのでしょうか？現場のニーズ・声は置き去りにされていないでしょうか？

利害関係の狭間で忘れ去られてはいけない生命の未来のために、共に今を動かしていきましょう！

開発金融と環境

9月



来日した現地住民・NGOと一緒に行ったJBIC前での抗議アクション。

ボタン石火にNo! 住民の声を日本へ!

日本の官民が推進するインドネシア・ボタン石炭火力発電所の建設に反対する住民らの来日を支援。国際協力銀行(JBIC)や企業前でのアクション、記者会見、セミナー等を行ない、住民の懸念や住民に対する深刻な人権侵害の実態を、JBICをはじめとした多くの人に伝えました。JBICは現在も融資決定に至っていません。

2014

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2015

1月

2月

3月

脱原発と福島支援

4月

日独ベラルーシ 経験交流



チェルノブイリ原発事故を体験したベラルーシの女性と若者、チェルノブイリの子どもたちを支援してきたドイツの市民団体が来日。核の脅威の現実に向き合い、新たなつながりをつくりました。

脱原発と福島支援

市民の力で 福島の親子の保養を実施

福島ぼかばかプロジェクトは、猪苗代、南房総での保養が軌道に乗り、2014年度は計11回、のべ289名が参加する保養やイベントを行うことができました。初めは一参加者だった福島のお母さんたちが、今は自分たちで企画を検討しています。また、2014年度から福島県外での保養について3億6000万円の国の予算がついたことは、市民の力による保養を継続してきた重要な成果です。



里山再生活動

12月

保育園に自然栽培米を届けたい。 実現に向け支援獲得!



クラウドファンディングご支援ありがとうございました!

中山間地にあるときがわ町の休耕田を甦らせ、自然栽培でお米を作り、地元保育園の給食用に届けるためにクラウドファンディングに挑戦。たくさんのご支援によりプロジェクト資金が確保できました!おかげさまで必要な機材を揃え、休耕田35アールを開墾し、保育園給食用のお米作りを開始できました。

森林保全と生物多様性

2月



都内のタワーマンション建設現場の様子: オレンジ色の板がコンクリート型枠合板。

気候変動・エネルギー

7月

としまで エネルギーを 考える会、スタート

省エネルギーや再生可能エネルギーの具体的な取り組みを、身近な自治体からも進めていきたいと、豊島区の住民や事業者と一緒に「としまでエネルギーを考える会」を立ち上げました。生涯学習・環境教育施設「みらい館大明」を拠点とし、豊島区とも連携しながら、施設の省エネ化の実践や勉強会などを行なっています。

違法材STOPに向けた第一歩! 法案が閣議決定される

違法リスクの高いマレーシア・サラワク材の主要製品の一つである型枠合板は、これまでその「合法性」を確認する対象から外れていました。FoE Japan等の働きかけの結果、2015年4月よりグリーン購入法の特定調達品目に「型枠合板」を加えることが決定し、同材の合法性とその信頼性を法に基づき問えるようになりました。

FoE International 2014

変革へ向けた4つの国際プログラム

FoEは個別の環境社会問題のみならず、制度や体制全体の変革を目指す4つの国際プログラムを展開しています。森林・生物多様性では「自然は売り物ではない」のスローガンのもとで生物多様性や農地・森林が金融や炭素商品化されることに反対。気候・エネルギーでは「ReclaimPower」という国際キャンペーンにおいて、リマCOP20期間中会議場内で最も活発にアクションを行いました。開発金融改革ではTPPやTTIPの環境や社会・人権への影響に警鐘を鳴らした功績により、国連人権委員会において多国籍企業へ人権擁護義務を課す国際条約を求める決議がなされました。また新設の人権プロジェクトは過去2年間で27カ国100件以上の環境にまつわる人権侵害や暴力の被害者への支援を行っています。



COP20(リマ)の開催期間中、気候マーチに参加したFoEインターのメンバー

脱原発と福島支援

FUKUSHIMA AND NUCLEAR PHASE-OUT

子どもたちの笑顔のために 被災者支援と原発ゼロへ



福島ぽかぽかプロジェクトin猪苗代 みんなでようかい体操第一。

プロジェクトの背景

3.11後、原発事故被災者支援と社会の根幹に関わる原発・エネルギー問題に正面から取り組んでいます。



トルコ・シノップ隣の漁師。地元でもほとんどの住民が原発建設に反対しているという。



空き地に積まれる除染土(福島県田村市都路, 2014年4月)。



日独ベラルーシの若者で脱被ばく、脱原発を議論。

原発の再稼働にNO!

2014年度は、規制委員会による「新規制基準」が2013年7月に施行されてから、最初の原発再稼働に向けた動きがありました。先頭を切る九州電力・川内原発は、2014年7月に規制委員会による審査書案が出されました。川内原発の周辺には巨大な火山がいくつもありますが、審査にあたって火山の専門家は招聘されず、規制委員会自体の火山ガイドに照らしても問題の多いものでした。また、避難計画はそもそも審査の対象になっていませんでした。

FoE Japanは、鹿児島市や薩摩川内市、いちき串木野市に何度も足を運び、現地で調査活動を行い、地元の人たちの運動と連携した活動を実施しました。特に福祉施設や病院などの万一の事故に際した避難計画の非現実性について、ヒアリングやアンケートにより明らかにし、広く公表しました。

審査書案は9月に承認され、11月には鹿児島県も「同意」しましたが、世論の盛り上がりと様々な手続きの遅れにより、未だに再稼働の見通しは立っていません。これに続いて審査書が確定した福井県の高浜原発について

は、危険なプルトニウムが含まれるMOX燃料が使われるにも関わらず、その審査が行われていないなどの問題があります。

日本も世界も脱原発へ

2014年4月、原発をベースロード電源として維持するという内容の新しい「エネルギー基本計画」が閣議決定されました。まるで原発事故がなかったかのような決定に対し、市民や環境団体の抗議が殺到しました。

同年4月、日本は、トルコおよびインドと原子力協定を締結しました。FoE Japanは8月にトルコ・シノップを訪れ、隣接する自治体での反原発集会に参加、地元住民らと共に原発立地予定地を訪問し、現地の声を日本の市民に伝えました。9月には、原発輸出を推進しメーカーを免責する「原子力損害の補完的補償に関する条約(CSC)」に反対し、署名や提言活動を行いました。2015年3月には、トルコやロシア、インドなどの活動家と共にシンポジウムを開催し、原発輸出反対と脱原発にむけた世界連帯を訴えました。

協力者の声

VOICE OF THE PARTNERS

福島ぽかぽかプロジェクトに参加して

土川 俊樹さん(個人サポーター)



50才を超えたおじさんのボランティア活動も2年目を迎え、少しだけ余裕が持てるようになってきました。参加するちびっこ達の純真な心、正しい自己主張に触れる度、少しでも伸び伸びと遊べる時間と空間を提供しようとするぽかぽかプロジェクトの意義を感じています。加えて、お父さん達との語りも自分の数少ない役目かなと思ひ大切に考えています。

2014年度の活動

県民健康調査と健康管理 実質的な被ばく低減が必要

2014年、福島県の県民健康調査では、子どもたちの甲状腺がんが次々と明らかになり、2015年2月には117名以上(疑い含む)となりました。国や福島県は、原発事故との因果関係は「考えにくい」としています。環境省の専門家会議も、福島原発事故に伴う住民の健康管理に関して12月に「中間とりまとめ」を出しましたが、甲状腺がん以外の病気に対応した健診や、福島県外での健診は行う必要がないとしています。これに対し、FoE Japanが設立した「市民・専門家委員会」は、問題点を指摘すると共に、東京や福島で緊急セミナーを開催し、パブリックコメントの提出呼びかけなど様々な働きかけ

を行いました。

また、FoE Japanが事務局をつとめる「原発事故被害者の救済を求める全国運動」では、被災者の住宅・健康・保養・賠償の問題を解決するため、新たな請願署名をスタートしました。

福島ぽかぽかプロジェクトは2014年度、猪苗代(春、秋に7回)、南房総(2回)への保養実施が軌道に乗り、参加者のお母さんたちが常連となり、友達を誘ったりスタッフとして参加したりと賑わうようになりました。キャンセル待ちも出るほどで、今後は参加者を中心とした自律的な運営に向け、新たな枠組み「福島ぽかぽかキッズ」を設立する方向に動いています。

政策レベルでは、2014年度から福島県外での保養についても国の予算がついたことは、小さいながらも重要な成果です。自治体との連携が不可欠であることなど、利用に際しての制約も大きいですが、FoE Japanとしては、何とかこのしくみを活かし、次につなげるべく関係者と調整を続けていきます。

2015年度の活動

被災者生活支援の継続・発展へ 健康管理や住宅支援、保養が不可欠



民意は原発ゼロ!

福島第一原発事故から4年以上。「復興」の名の下に、避難区域の解除や避難者の住宅支援の打ち切り方針などの動きが加速しています。2015年4月、未だに「年間被ばく線量20ミリシーベルト」を基準とする特定避難勧奨地点解除に反対し、南相馬の住民たちが訴訟に立ち上がりました。FoE Japanは彼らを支える会を結成し全面的にサポートします。子どもたちの甲状腺がんの深刻さも増えています。FoE Japanは、福島で生活する人びとや避難者と共に、被災者の生活支援の充実・継続を求めて国会に働きかけます。

また、2013年の9月から2年近く続いている国内での原発稼働ゼロを少しでも長く保ち、2016年の電力小売全面自由化にむけた電力会社の乗り換え(パワースhift)を呼びかけます。

「適応の限界」を超える被害 現場の声を聞き、伝える



ペルー・リマでのCOP20にて、FoEインターナショナルのメンバーとともに。

プロジェクトの背景

日本政府の温室効果ガス削減目標は、先進国の責任に見合わず、途上国では「適応」できない被害が現れています。



雨季に入っても雨が降らず、農作が開始できない農村の一家（スリランカ）。



4月25日の世界ペンギンデー。南極の生態系保全と気候変動影響を訴えました。

め2010年に国連気候変動枠組条約の下に設置された適応の国際体制に加え、2013年には「損失・被害」国際メカニズムが設置されました。2014年12月のCOP20（リマ会議）では、主に損失と被害の国際メカニズムに注目し、海外NGOと共に決定文書において言及されるように働きかけ、成功しました。

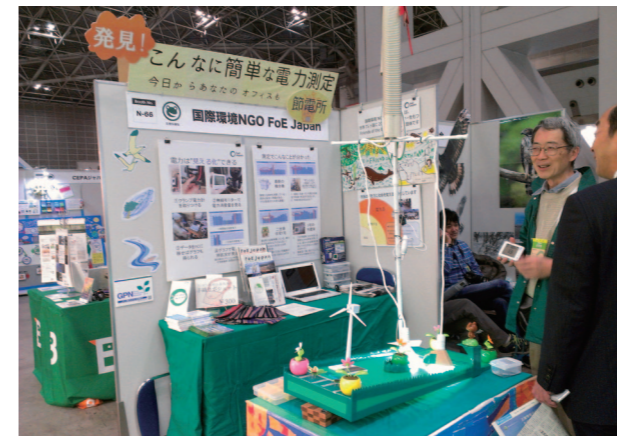
FoE Japanは、インドネシアでの適応プロジェクトへの支援を続けるとともに、アジアでの気候変動被害を調査し国内外に発信する活動を始めました。2014年度は10月上旬に、スリランカの中北部乾燥地帯の農村を訪問し、降水パターンの変化（豪雨や干ばつの頻発）とそれによる農業・生計への影響をヒアリングしました。このような、とりわけ影響に脆弱な層の人々の声を日本および国際社会に届けながら、パリでのCOP21に向け、各国政府および国際メカニズムに働きかけを行っていきます。

2014年度の活動

「適応の限界」への対応と、公平で実効力ある国際枠組みに向けて

気候変動の影響は、平均気温や海面の上昇、降水パターンの変化から森林火災の増大、海洋酸性化など多岐に渡ります。マングローブを植える、自然の防波堤であるサンゴ礁の保存で沿岸を守る、渇水に備えた地域の灌漑を改良する、より高温に耐える作物種へ移行するなど、適応策も様々で地域や国によってニーズが異なります。

一方で「適応の限界」を世界の科学者が指摘しています。平均気温や海面の上昇、降水量の変化など長年ゆっくと起きてゆく影響には長期的な対策が必要とされます。同時に、すでに起きている被害に対して、対応力の乏しい国への国際的な対応や支援の強化が必要です。このた



「簡単にできる電力測定」をテーマにエコプロダクツ2014に出展。

電力の見える化で省エネ！ エネルギーシフトの促進

2013年度に引き続き、省エネルギー実践と普及啓発に取り組みました。無線電力測定器や温度測定器、使用電力メーターなどを複数購入し、事務所や他の事業所、関心のある個人への貸し出しを行いました。自宅や事務所の使用電力を見える化することで、参加者それぞれが、省エネについて身近に考えることができ、こまめなスイッチオフはもちろん、古い冷蔵庫を買い替えたり、扇風機を活用してエアコンの利用を控えるなど、具体的なムダの見直しにつなげることができました。

8月に移転したFoE Japanの新事務所でも電力測定を行ったところ、夜間の電力使用量が高いことがわかり、複合機の待機設定の見直しを行いました。また白熱電球をLED照明や人感センサーつきLED照明に付け替えたり、窓ガラスに断熱材を貼ったり、簡易の内窓を取り付けたりと、身近にできる省エネの工夫を実践しました。

7月には、東京都に対して省エネルギー・再生可能エ

ネルギー利用を進める要望を伝えるため、都内の複数の環境団体などとともに公開討論会を開催しました。また、8月から12月にかけて、身近なエネルギー利用の見直しをテーマに4回のセミナーを開催し、普及啓発と意見交換を行いました。

- 第一回「簡単にできる省エネ」（鈴木国夫氏）
- 第二回「自然と共生する住まい（住宅見学とお話）」（石田信男氏）
- 第三回「太陽エネルギー利用」（都筑建氏）
- 第四回「節電所をつくろう」（朴勝俊氏）

2013年から豊島区で活動している「としまでエネルギーを考える会」にも引き続き団体として参加し、主な活動場所であるみらい館大明（豊島区の生涯学習施設）で、FoE Japan事務所と同様に省エネルギーの実践を行うほか、その成果を「省エネショールーム」として2月に発表しました。

協力者の声

VOICE OF THE PARTNERS

豊島区「みらい館大明」で省エネ実践

荘司哲夫さん
（みらい館大明スタッフ）



みらい館大明でも電力測定や省エネの実践を行いました。1階の入り口付近の廊下の古い蛍光灯を取り外し、人感センサーつきのLED照明を設置したところ、利用者からも「うちでも使ってみよう」などの声が聞かれました。職員の間でも省エネ意識が高まり、今夏から、空調の効率化のために全部屋にサーキュレーターを導入することを決めました。今後は、区的环境教育施設としての役割も担っていき、取り組みを続ける予定です。

2015年度の活動

パリ会議に向けて Climate Action Now!



浸水で使えなくなった家（インドネシア）。

2015年12月にパリで開かれる国連気候会議（COP21）は、京都議定書以後、空白期間を経て次の国際枠組みを決めるための重要な会議です。FoE Japanは、日本の削減目標（残念ながら先進国の責任とは程遠い）と、途上国における「損失と被害」国際メカニズムの構築に注目しています。日本でも、キャンペーン「Climate Action Now!」に参加し、11月に東京などでのパレードを予定しています。気候変動被害の現場の声については、引き続きフィリピンやインドネシアでの調査と映像などでの発信を行います。

省エネルギーの実践と普及啓発は、2014年度の経験や体験談をもとに拡大を計画しており、豊島区を中心に活動を継続します。電力測定器の貸し出しも継続していますので、ご関心のある方はぜひどうぞ！

森林保全と生物多様性

FOREST AND BIODIVERSITY

違法材を使わせない法の実現 と森のみえる木材利用推進！

①プロジェクトの背景

日本が違法材の温床になる危険性が高まる中、国の規制強化を実現する政策提言とフェアウッドの普及に努めています。



押収されたミャンマーの違法製材。



東松島の仮設住宅集会所でのベンチ組立てイベント。



海外ゲストを招いた違法伐採に関する院内セミナー。

2014年度の活動

世界の森林保全のための違法伐採対策強化に向けて、大きく前進！

日本で現在行われている違法伐採対策は、グリーン購入法の規定により、「合法木材」の利用を積極的に推進することで「違法木材」を減らしていく、というものです。これは政府調達に限って「義務」とされるもので、企業間の取引や、私たち市民が普段売り場で目にする紙製品、家具、木材製品等について規制するものではありません。したがって私たちが手にしている紙・木材製品の「合法性」は必ずしも担保されていないため、依然として日本が「違法伐採」に加担しているリスクは払拭できません。近年、アメリカ、EU、オーストラリア等が民間調達も対象にした罰則を伴う違法伐採対策を推し進める中で、

日本がその動きに追随しないことは、国際社会の足並みを崩すことのみならず、規制の厳しい市場から漏れた「違法木材」を受け入れる温床になってしまうことが懸念されます。

2014年度は国会議員へのロビー活動を積極的に展開し、賛同議員を徐々に増やしていきました。9月にはEU木材法の実態を把握してもらうEU諸国への議員視察が実現、2015年3月には超党派の「山の日」制定議員連盟の勉強会にて違法伐採問題を議題として取り上げてもらうことができました。

また、サラワク材などによる「熱帯型枠合板」は、違法リスクの高い主要木材製品の一つとされながら、これまでのグリーン購入法の下では合法性を確認する製品の対象から外れていましたが、FoE Japan等の提案の結果、2015年4月より「合板型枠」として対象製品の一つに加えられることになりました。これにより、サラワク材などの合法性、信頼性を法に基づいて問うことができるようになりました。



マレーシア・サラワク州
緑の砂漠とも呼ばれるアブラヤシ農園開発の様子。

森と作り手のみえる木材利用で、 国内外の森林を守る方法を普及する

森と作り手の顔がみえる木材利用の拡大を目指すフェアウッドでは、環境に配慮した木材調達を望む住宅関連企業に対し、ミャンマー等の環境破壊リスクの高い木材生産国の情報を提供し、製品に使用する木材樹種の環境リスク評価のサポートを実施しました。また、全国に小売店舗を持つ企業と協働し、店舗内の木製備品・什器への地域材・間伐材の利用を拡大し、消費が行われる空間における非商品としての設備にも環境に配慮した木材を使用することで、国内の森林を保全する木材利用の普及に努めました。

広く一般の方々へのフェアウッド普及を目指すフェアウッドカフェでは、地域材の利用促進を目的とした農林水産省・林野庁の取り組みである木材利用ポイント制度と連動し、国産の木工製品を交換商品として、2014年

度で約1300点を提供しました。また、子どもから大人までの参加がある野外イベントへも出店し、スギの間伐材を使った木工ワークショップの実施や、生産者のみえる地域材製品の販売を行いました。

国内外の森林を保全するネットワーク形成の一環として、大阪市富田林の自然を守る会、NICEと協力の下、私たちに身近な木材利用と森林保全を考える映画の上映会と勉強会を新たに開始しました。また、間伐材ベンチの寄贈を行う「森のプレゼント」では、宮城県東松島市の仮設住宅集会所、中野区の保育園、横浜市の動物園等において木育ワークショップを実施し、合計17台のベンチを寄贈しました。

被災地での活動を行う「結いの素プロジェクト」では、自立再建を望む被災者向けの復興住宅見学会、森林・製材所見学会の開催を支援しました。また、今後本格化する海岸防災林の植樹について地元の市民団体および住民との打ち合わせを開始し、次年度以降の実践活動の準備を行いました。

参加者の声

VOICE OF THE PARTICIPANTS

里山から世界を考える勉強会の開催

平田潤さん(ナイス、週末リーダー) 日常生活と豊かな里山の消失については普段の活動の中で意識していますが、私たちの生活がマレーシアの森林破壊を加速させていることに驚きました。一人の消費者としてこの問題を解決することはできませんが、勉強会と一緒に参加した方々との対話を通じ、改めて自分自身の購買選択の重みとその積み重ねが全てであることを再認識しました。



2015年度の活動

持続可能性の担保された木材利用を 実現するための調査・提言・実践を！



宮城県山元町での海岸防災林の植樹活動。

違法伐採対策の規制を強化するため、議員立法の制定へ向け、議連や法制局と新法素案の具体的な検討を進めます。また、2020年のオリンピックへ向け「持続可能性」の担保された木材利用を推進すべく、企業・業界団体へのロビー活動を行います。また、現地において違法伐採等の森林破壊が報告されているにも関わらず、日本への木材流通が増加しているミャンマー等の木材生産国調査を実施します。フェアウッドでは、国内の地域材を使用した木材・木質製品の更なる利用拡大を目指し、木材利用企業へフェアウッド調達のサポートを継続。幼稚園・保育園等での木育ワークショップおよびベンチの寄贈も実施し、国内の森林保全に寄与する木の使い方の普及に努めます。被災地においては、長期的なサポートが必要とされる海岸防災林の再生活動のため、宮城県内の市民団体と協働して植樹活動を行います。

開発に伴う貧困化・環境被害をなくすために



(左) バタン発電所建設予定地の農地で、米・魚等への影響を懸念し、「Food」の英文字を作って建設反対を訴える住民(2014年9月)。(右) 辺野古キャプション：世界でも有数の生物多様性を誇る辺野古の海。



プロジェクトの背景

国内外で進められる大規模開発をチェックし、住民のニーズ・決定の尊重と負の影響の回避・最小化を提言しています。

2014年度の活動

大規模開発による環境破壊の現状と反対する住民の声を届ける

国際協力銀行(JBIC)の環境ガイドライン改訂コンサルテーションでは、特に人権に関する提言を行ない、改訂版に「人権の尊重」を明記させることができました。個別案件では、インドネシア・バタン石炭火力発電所の建設中止を求める現地住民・NGOと連携し、JBICに同事業への融資を行なわないよう求める活動に力を入れました。JBICは、ガイドラインに則った審査を続ける旨を国会で答弁し、現在も融資の決定には至っていません。

国内では、辺野古・大浦湾米軍新基地建設の中止を求め、多くの賛同署名と共にNGO緊急共同声明を日本政府に提出しました。岩礁破碎や仮設棧橋等具体的な問題点に関しては防衛省と政府交渉を実施しました。また、抗議船船長やカヌー隊メンバーを招いて緊急集会やお話

会を開催し、現地で起こっていることを広く市民に伝えました。

マングローブ保全活動の発展と温暖化影響の深刻化による更なる課題

コミュニティ主体の持続可能な適応対策として、インドネシアの海面上昇に直面する漁村において浸食対策やマングローブ植林、コミュニティのエンパワーメントを支援してきました。スマラン市のプロジェクトでは、コミュニティ保全活動の自立発展が進み、今ではモデルケースとして広く紹介されています。一方、プカロンガン市では、住民参加型のマングローブ保全が軌道に乗り始めましたが、海面上昇のスピードが早く、人々の生活環境の悪化やマングローブ生態系への影響も懸念されています。適応の範囲を超える対応が必要になっています。

開発金融と環境

2015年度の活動

フィリピン・バイオ燃料、ニッケル開発やインドネシア・石炭火力発電、辺野古・米軍基地建設等、個別事業の問題解決に向け、また、JBICの石炭火力支援の停止に向けた調査・提言活動を継続します。また、インドネシアの気候変動適応活動では、これまでの経験を普及させる他、適応を越える影響への対策を検討していきます。

協力者の声

VOICE OF THE PARTNERS



「辺野古」でつながる生物多様性と平和
花輪伸一さん(ラムサール・ネットワーク日本)

辺野古新基地の建設に反対する運動は、沖縄から日本全体へ、そして世界へと広がっています。FoE Japanの呼びかけで集まった「辺野古・高江をまもろうNGOネットワーク」は、地域の豊かな生物多様性と人々の安全な生活環境を守るために活動を始めました。環境、人権、平和がつながりつつあります。

身近な自然と親しみ、里山の循環を取り戻そう



プロジェクトの背景

かつて里山と人の暮らしは密接に関わっていました。人の手が入らずに荒れてしまった里山の再生を目指し活動しています。

(左) 青空の下で食べるランチは最高です(宇津木の森)。(中) 夏の間の草刈りががんばりました(宇津木の森)。(右) 子ども大人も夢中になってお米掘り(ぐるぐるスマイル農園)。

2014年度の活動

自然に寄り添った暮らしを続けて里山や休耕田をよみがえらせる

埼玉県小川町・ときがわ町で実施している「里山ぐるぐるスマイル農園」では、里山と田畑との循環の中で、参加者たちと共に山の手入れや野菜作りに取り組んでいます。4年前には竹ヤブだった約4ヘクタールの里山林は、両手を広げて歩けるほどになりました。伐採した竹は踏み込み温床枠などの資材として、また粉碎してマルチングや土壌改良材として活用しています。春から秋は実習畑での野菜作り。幼児から年配者まで毎回20人前後の参加者たちとワイワイ楽しく作業をしています。また、休耕田を甦らせながら自分たちで食べるお米作りに参加できる「田んぼトラスト」活動は、3年目で約40アールにまで広がりました。畑も合わせると1ヘクタールの休耕田を復活できました。

今のライフスタイルに合った里山利用を目指して

東京都の保全地域、八王子の「宇津木の森」において、季節に合わせた森の手入れを行っています。大きくなった木を伐採して薪やキノコのホダ木として利用する、落ち葉を溜めて腐葉土を作る、タケノコや梅、栗など里山の恵みをいただくなど、活動を体験し楽しむ中で、「森の産物をどう活かすか？」について共に考える機会を提供しています。

活動は、常連ボランティアが中心となって行なっています。2014年度は、学生グループや団体単位での参加が増え、伸び放題になっていた梅の剪定や樹名板の設置、大量の伐採木の薪割りなど、より整備を進めることができました。また、作業時の安全確保のため、草刈機やチェーンソーを使用する際の安全ガイドラインや緊急連絡網などの整備・周知を行いました。

参加者の声

VOICE OF THE PARTICIPANTS



里山に学ぶこれからの暮らし
宮城里佳さん

3.11を機に辿り着いたのはお金に頼るだけの今の暮らしを見直す事でした。ぐるぐる農園では竹や落ち葉、雑草、もみ殻等、そばにあるものを大切に利用し、田畑や人へ還元しています。季節や天候、生物の営みと循環の中に人が助け合い生かされている事を実感します。農園の活動は発見と学びの連続です。

2015年度の活動

「ぐるぐるスマイル農園」では、今年も参加者たちと一緒に定例活動や田んぼトラスト活動を継続するとともに、新たに開墾した休耕田で保育園給食用としてお米作りに取り組みます。「宇津木の森」では、定例活動以外のイベント開催や案内看板の設置など、地域の人に親しまれる場所になることを目指して活動していきます。

里山再生

店舗内装のフェアウッド化により
日本国内の森林保全に貢献

株式会社ラッシュジャパン

2010年に「PALM FREE はじめの一步」キャンペーンを協働で行って以来、様々な活動に支援をいただいています。近年は、店舗のディスプレイ用備品を宮城県産の木材に切り替えるなど、本業での環境配慮として、国内の地域材・間伐材の利用を通じた森林保全にも一緒に取り組んでいます。また、社員の誕生日プレゼントに間伐材のソーブディッシュを配るなど、積極的な社員啓発も行っています。



「地球にやさしいカード」で
地球の環境保護活動を支援

株式会社セディナ

クレジットカードのショッピング利用金額の0.5%を、(株)セディナが負担し、環境保護を行う団体へ寄付する取り組みです。(株)セディナの「地球にやさしいカード」の支援テーマは14種類。その一つ「地球温暖化を抑える」活動の支援先として、2005年よりFoE Japanの温暖化防止の活動を支援して下さっています。



企業との取り組み

Collaboration

FoE Japanの活動は、様々なステークホルダー(行政機関・企業・市民など)に対して提言するだけでなく、共に問題解決に取り組むことで、社会的に大きな影響力を作り出すことを目指しています。持続可能な社会を実現するためのご支援、活動へのご参加をお待ちしています！

「鴨川シーワールド」で
福島の子どものための保養を支援

株式会社グランビスタ ホテル&リゾート

福島ばかばかプロジェクトでは、子どもたちの保養のため、毎年春と夏に南房総で4泊5日のキャンプを行っています。2015年3月のキャンプでは、(株)グランビスタ ホテル&リゾートのご支援により、その運営施設の一つ「鴨川シーワールド」への子どもたちの招待が実現。海の動物たちとの触れ合いを楽しむ機会を提供いただきました。



Thanks!

ご支援いただいた企業・団体

【法人サポーター】 トーヨーマテラン/日本リユース機構/ハートフルホーム/ブロードリンク/ホテル龍名館東京【寄付】 いちよし証券/WE21ジャパンとつか/WE21ジャパンほどがや/グリムス/セールスフォース・ドット・コム/セプターニベンチャーズ/チューリッヒ保険会社/ティノス・セシール/西日本旅客鉄道/パルシステム生活協同組合連合会/ポケットカード/ホテル龍名館東京/未来の世代へ捧げる会/ヤフー/来花/楽天インシュアランスプランニング/ラッシュジャパン/リコー/ローラ アシュレイ ジャパン(敬称略 ※年度計で5万円以上のご支援をいただいた企業・団体)

今を変えるためにあなたにできること

Be a Friend of the Earth!!

あなたの声を力にしよう！

「変えたい」と願う人々の声、一つ一つは小さくても、それらが集まることで、今を動かす大きな力になります。FoE Japanにとって、みなさん一人一人の声は、必要不可欠なエネルギーなのです。

■ 気になる問題の現状を「知る」

まずは今を知ることから。FoE Japanではスタッフが現地へ赴いて調査した情報、現地で聞いた人々の声をより多くの方に知ってもらうため、ウェブサイトやメールマガジン、ニュースレター等で情報発信するのはもちろん、年間を通じて50以上のセミナーやシンポジウムを実施しています。気になるテーマのイベントを見つけたら、まずは参加してみましょう。

■ より多くの人に「伝える」仲間と「つながる」

問題を知って「どうにかしたい」と思ったら、ぜひその想いをより多くの人に伝えてください。SNSを通じて情報を広めたり、署名などのオンラインアクションに参加したりすることも、あなたの想いを力に変える一つの方法です。問題がより多くの人々に伝わり、同じ想いをもちた人々がつながることで、今を動かす力が生まれます。

■ 体を使って「動かす」

宇津木の森 里山再生プロジェクト



東京都八王子市の里山を拠点にした活動。木や竹を伐採して利用したり、タケノコや梅、栗など季節の恵みをいただいたり、楽しみながら、今の生活に合った里山の活用方法を模索しています。

ぐるぐるスマイル農園



埼玉県小川町とときがわ町を拠点にした活動。「森づくりと野菜づくりでみんな笑顔に」をモットーに、山と田畑とくらしとの自然の循環の中で、お米や野菜作りに取り組んでいます。

日曜ハイキング



週末に関東近郊の山々を歩くハイキング。毎回10~20名の方が参加し、春は桜やツツジ、夏はビアガーデン、秋の紅葉狩りなど、四季折々の自然に親しみながら、参加者同士の交流も楽しめます。

Media

メディア掲載

新聞、雑誌等で私たちの活動を取り上げていただきました。

【主な記事】 ◆朝日新聞「攻防の末「再稼働賛成」(2014.10.21) ◆環境新聞「違法木材対策に限界 政府のグリーン調達」(2014.5.21) ◆週刊金曜日「原発事故による避難住宅の窮状 期限迫る無償支援の延長を」(2014.5.23) ◆東京新聞「弱者の避難軽視 甘い噴火対策 署名1ヵ月半 過半数「NO」(2014.7.9) ◆北海道新聞「原発輸出加速のおそれ メーカー賠償責任負わぬ 補償条約国会承認で」(2014.11.25) ◆毎日新聞「温暖化に挑む「石炭発電支援」日本に化石賞」(2014.12.12) ◆まにら新聞「市民団体が水質調査 日系企業出資の工場付近」(2014.11.27)

【その他に取り上げていただいた媒体】 ◆官定法ニュース ◆環境市民マガジン ◆週刊朝日 ◆しんぶん赤旗 ◆西日本新聞、他(計22件)

Lecture

講師派遣実績

各分野で活動するスタッフが、学校や自治体、企業などから招かれて講義・講演活動を行っています。

【主な講演先】 ◆九州大学 講義「原発事故後のエネルギー政策と市民参加」 ◆小平市省エネ・創エネフェア「節電所をつくらう！家庭の電力使用量の見える化から」 ◆とよたエコ人プロジェクト 未来へのエコトーク2014「100年後の地球 地球温暖化の影響」 ◆明治学院大学 講義「日本と鉱物資源調達の問題について」 ◆日本合板工業組合連合会 技術講習会「南洋材丸太・合板の今後の調達リスクについて」 ◆パルシステム生活協同組合連合会 シンポジウムにて講演「甲状腺がんをめぐる最近の情勢」 ■その他、麻布大学、一橋大学、法政大学、明治大学、避難計画を考える緊急署名の会、緑の党かわさきなどにて、講義・講演を実施(計48件)

2014年度決算報告書 (平成26年度)

(事業年度：2014年4月1日～2015年3月31日) (単位：円)

貸借対照表

(2015年3月31日現在)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金	369,618	預り金	149,085
外貨現金(ドル)	539,400	従業員預り金	271,431
定期預金	0	前受金	2,779,968
普通預金	37,539,516	未払費用	2,354,135
未収入金	5,945,682	仮受金	779,466
仮払金	188,050	固定負債	0
固定資産		負債合計	6,334,085
機械装置	517,344		
資産合計	45,099,610	正味財産の部	
		前期繰越正味財産	34,801,431
		当期正味財産増減額	3,964,094
		正味財産合計	38,765,525
		負債及び正味財産合計	45,099,610

活動計算書

(2014年4月1日～2015年3月31日)

経常収益		経常費用	
会員会費	2,141,389	事業費	
寄付金	15,902,668	開発金融と環境	9,057,633
財団助成金	20,014,107	気候変動	9,115,904
事業収益		原発・エネルギー	11,500,439
自主事業収益	11,432,644	森林保全と生物多様性	17,150,332
受託事業収益	12,016,605	里山再生	2,167,366
受取利息	3,909	事業費計	48,991,674
為替差損益	1,382,692	管理費	9,938,246
雑収入	0	経常費用計	58,929,920
経常収益計	62,894,014	当期正味財産増減額	3,964,094
		前期繰越正味財産	34,801,431
		次期繰越正味財産	38,765,525

監査結果 上記 FoE Japanの2014年4月1日から2015年3月31日までの事業年度の財務諸表、即ち、貸借対照表、活動計算書は、当該年度の経営成績を適性に表示しているものと認める。

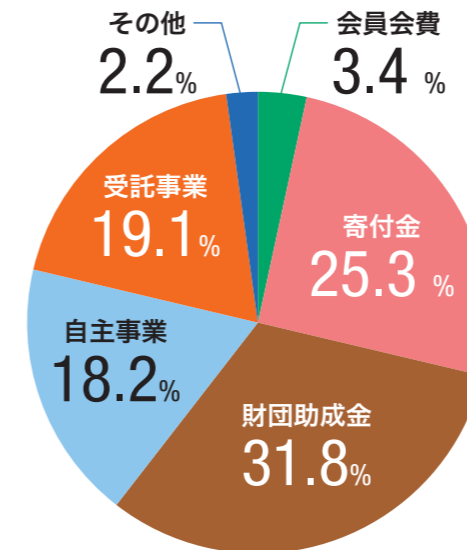
平成27年5月31日

監査人

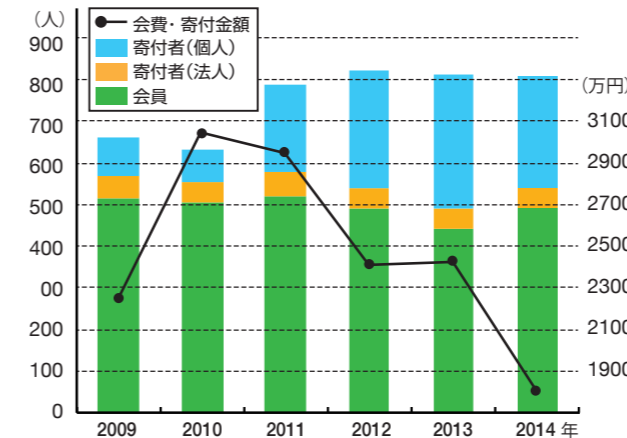
原田 公夫



収入



会員数、寄付者数の推移

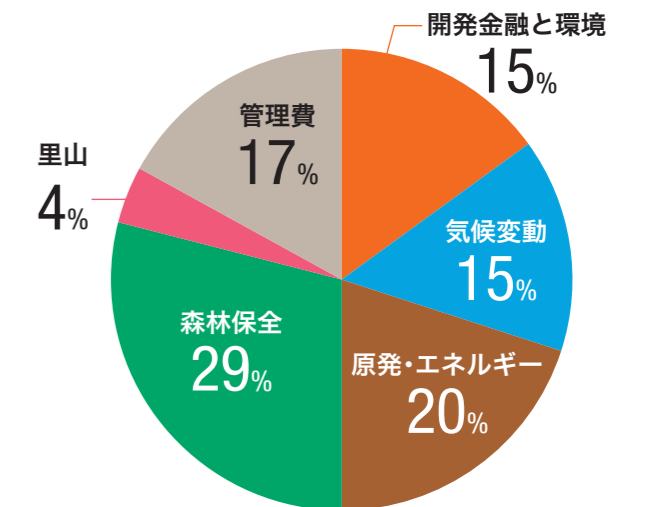


組織概要

(2015年4月現在)

団体名	エフ・オー・イー・ジャパン (通称：FoE Japan)
代表理事	ヘルテン・ランダール・アラン
事務局長	三柴 淳一
設立	1980年1月
所在地	〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-21-9
法人格	2001年11月 東京都より、NPO法人の認証を受ける 2010年7月 国税庁より、認定NPO法人として認定される
加盟組織	Friends of the Earth International (本部：オランダ)
組織構成	理事・監事12名/常勤職員4名/アルバイト3名/委託研究員5名

支出



2014年度は、スタッフの入れ替わりなど大きな体制の変化を受けて始まった一年でしたが、財政面ではほぼ予算計画通りの活動を行うことができました。

事業収入では、企業の環境に配慮した木材調達サポートによる収入が大きく伸びました。

会費収入や寄付収入が大きく減少した要因としては、団体の広報活動の弱さがあると考えています。支援を呼びかけた際に応えて下さる方々はこれまでと同程度いるので(左グラフ)、必要な活動に支援をいただけるよう、戦略的に広報活動を強化していきたいと思っています。

Be a Friend of the Earth!!

FoE Japanの活動は、皆様のご協力に支えられています。

サポーターになって支える

個人会員:5,000円/年~

ニュースレター(年4回)をお届けします。
各種イベントが割引になります。

寄付で支える

金額の上限・下限はありません。

活動を支える力になります。

※ FoE Japan は認定NPO法人に認定されているため、
ご寄付は寄付金控除の対象となります。

オンラインから

FoE Japan

検索

<http://www.foejapan.org/join/index.html>

パンフレットから

資料をお送りします。
下記までご連絡下さい。

銀行振込

振込先:三菱東京UFJ銀行
目白支店 普通3932089
エフ・オー・イー・ジャパン

※ 送金後、確認のために、事務局までご連絡ください。

郵便振替

郵便振替口:00130-2-68026
口座名:FoE Japan

郵便局備付の払込取扱票をお使いください。
通信欄に、「サポーター申込み」または「寄付」(希
望があれば使途も)とご明記の上、住所、氏名を
お忘れなくご記入ください。



認定NPO法人 **FoE Japan**

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-21-9

TEL: 03-6909-5983

E-mail: info@foejapan.org URL: <http://www.foejapan.org/>